

| | | | | | |
|------|------------|-----------|-------------|--------|------|
| 講義名 | ベンチャービジネス論 | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 井上 芳郎 | 開講期・曜日・時間 | 前期 木曜日 5 時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 2 年生 |

主題と概要

我が国の経済が活性化し繁栄し続けるためにはベンチャービジネスの出現や企業のイノベーションが必要です。この授業では豊かな経済を作り出す組織について学びたいと思っています。合わせて、我が国の経済発展の過程を俯瞰しながら、ベンチャービジネスの存在意義とベンチャービジネスに関わる経済政策の推移を考察します。

なお、この授業は、多くの学部学科の学生が履修できる科目です。よって、特定の学部、学科、コースのディプロマ・ポリシーと結びつけて表現することはありません。ただし、鍵となるのは以下の概念になります。

経済の活性化、繁栄には、ベンチャービジネスの出現、企業のイノベーションが不可欠。その主体となるのは、いまここに存在する様々な組織（企業、NPO、行政機関）であること。上記をスローに実現するためには種々の組織の努力が必要であるが、経済政策の存在も見逃せないこと。以上を総合して理解していくことが、この授業の主題であり概要です。

到達目標

ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することを目標とします。合わせて、将来起業したいという学生のために、起業の実現と発展のためのポイントと、教科書を使用しながら学んでもらうことも目標です。加えて、ベンチャービジネスは国の経済発展において大きな役割を担うことが期待されていますので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される諸施策をいかに活用するかを理解することも目標です。

以上を皆さんの立場から「〇〇することができるようになる」という形で表現すると以下のようになります。繰り返しと恐縮ですが、しっかり確認の上で履修登録してください。

ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することができるようになる。
将来起業したいという学生が、起業の実現と発展のためのポイントと、教科書を使用しながら学ぶことができる。
ベンチャービジネスは国の経済発展において大きな役割を担うことが期待されていますので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される諸施策をいかに活用するかを理解することができる。
以上、しっかり確認してください。

提出課題

web等を通じての「クイズ」は、原則として毎回の授業時に行います。それらはすべて評価に反映されます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出課題については、授業の中で紹介していきます。授業においてレポートの内容などを紹介する場合、原則として個人名を出すことはしません。

評価の基準

1. 授業への参加状況（出席がすべてではありません） / 30%
2. 日常的な課題（レポート、クイズ）に対する評価 / 40%
3. 期末試験（レポートの場合もあり） / 30%

なお、社会情勢の変化によって、評価項目の内容、また評価項目ごとの割合を変更することがあります。その場合は授業及び講義連絡で周知します。

履修にあたっての注意・助言他

ベンチャービジネスや企業経営にかかわるニュースに関心を持って生活してください。また、そのようなニュースに、授業で学んだことを当てはめる習慣をつけてください。

具体的には、新聞や雑誌を通じて、ダイナミックな経営を行なっている企業を見つけ、その企業がどのような経営を行っているかを徹底的に観察してみたいでしょう。さらに進めると、その企業の歴史（企業の経緯、創業の経緯、取扱商品やサービスの推移、市場展開の推移など）を調べてみるのもよいでしょう。企業の現在は過去の延長線上にあります。現状と過去を結合することで企業活動をより良く理解することができます。この手法はベンチャー企業だけではなく、色々な企業の研究にも活かせるはずです。

教科書

| | | | | |
|--------------|----------------------|-----|------|---------------|
| .デザインの思考法図鑑. | btrax著 部ランドン・片山・ヒル監修 | ソシム | 2200 | 9784802614320 |
|--------------|----------------------|-----|------|---------------|

参考図書

| | | | | |
|---------------|----------|------|------|---------------|
| .リーン・スタートアップ. | エリック・リース | 日経BP | 1800 | 9784822248970 |
|---------------|----------|------|------|---------------|

その他

- * 授業で使用する資料がある場合は講義連絡を通じてポータルにアップしますので、各自で対応してください。
- * 教科書である「デザイン」の思考法図鑑は、第一回目の授業から使用しますので、必ず購入して下さい。

授業計画

1. 授業のすすめかた、授業の目標を確認
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
2. 経済の発展と歴史的経緯、経済政策の役割 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
3. 経済の発展と歴史的経緯、経済政策の役割 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
4. ベンチャービジネスとは + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
5. ベンチャービジネスの発展プロセス + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
6. ベンチャービジネスの発展プロセス + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
7. ベンチャービジネスと資金調達 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
8. 中継の振り返り
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
9. ベンチャービジネスを理解するための経営理論 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
10. ベンチャービジネスを理解するための経営理論 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
11. ベンチャービジネスを理解するための経営理論 + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
12. ベンチャービジネスとリターンキャンパス + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
13. ベンチャービジネスとリターンキャンパス + 「デザイン」の思考法図鑑、輪読
<復習> 本日の授業の振り返り：120分
<予備> 次週の輪読部分を3回読む：120分
14. ベンチャービジネスとビジネスプラン
<復習> 本日の授業の振り返り：240分
15. まとめ講義
<復習> 本日の授業の振り返り：240分

- * 社会情勢及び授業の進捗によって、一部内容の変更を行う場合があります。
- * 設備調由による授業を行う可能性があります。その場合は、上記内容を変更します。内容は授業中およびキャン明日・クロスで連絡します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は商学部・経営学科の「起業・事業承継コース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、「新事業を創出するための基礎となる、マーケティング理論や経営理論を理解できる。」、「起業や事業承継（第二創業）、社内ベンチャーなどについての夢やビジョンを、具体的な事業計画として立案することができる。」、この2つを目標にしています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポートや課題に対しては、原則としてwebを使用します。ただし、期末レポートを課す場合の提出方法は、別途告知します。

実務経験の有無及び活用

大学卒業後は、製菓会社、機械工具製造会社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いままか三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルタントファクタに転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。2002年に本学教員となりました。

備考

ありません。